



富山県立大学富山キャンパス同窓会が
2023年4月に設立いたしました。

同窓会報「和」には、
「共に学んだ仲間を大切にし、
同窓会が和やかな場となるように」
という意味を込めました。

これからの活動について、皆様の
ご協力をお願いいたします。



富山県立大学富山キャンパス同窓会機関誌 創刊号

発行日：2024年（令和6年）3月吉日

発行：富山県立大学富山キャンパス同窓会

住所：〒930-0975

富山県富山市西長江2丁目2番78号

電話：076-464-5410

メール：info@tpu-toyamadosokai.jp

URL：https://tpu-toyamadosokai.jp

目次

- ▶ 先生からのメッセージ
- ▶ 会長挨拶
- ▶ 卒業生のいま
- ▶ ポートランド州立大学語学研修活動報告
- ▶ 同窓会活動報告・お知らせ

先生からの メッセージ

副学長・看護学部 教授
岡本 恵里先生



看護学部一期生の皆様、お元気でお過ごしですか。それぞれの進路先で奮闘されていることでしょうか。二期生の皆様、ご卒業おめでとうございます。いよいよ新天地での生活がスタートしますね。

2023年4月に大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)、看護学専攻科(公衆衛生看護学専攻・助産学専攻)

がスタートし、研究科は本年1月に、老人看護専門看護師の養成機関としても認定されました。このように母校は“ドンドン マスマス”成長しています。

これもよちよち歩きの看護学部の土台を、一期生が教員と共に作り上げて下さったこと、そしてコロナ禍に入学した二期生と共に、教員も手探りであったオンライン授業に懸命に取り組んで下さった等々のお陰です。

4月には六期生を迎え、皆様の背中を追う後輩たちが増えていきます。卒業生がキャリアプランに合わせて生涯学び続けられるよう、様々な形でサポートしていきますので母校を活用して下さい。そして、成長して遅くなった卒業生と再会できることを、教員一同楽しみにしています。

会長挨拶

富山県立大学
富山キャンパス同窓会長
室 日菜子
(令和4年度卒業)



令和4年度3月に富山県立大学看護学部一期生として本学を卒業し、早1年が経ちました。4年間、楽しい時を過ごし、辛い時も共に乗り越えた仲間たち一人ひとりが新たなスタートを切り、それぞれの場所で活躍されていることと存じます。

本学で過ごした中で、先生方や事務局の皆様、実習先の施設の皆様、受け持たせていただいた患者様など、沢山の方々から多大なるご支援をいただきました。

これからは、同窓会として大学の更なる発展と充実のために少しでも貢献できるよう活動していきたいと考えております。

富山県立大学富山キャンパス同窓会がますます発展できますよう、同窓生の皆様のご支援をお願いするとともに、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



卒業生のいま

荒谷 美波さん
(令和4年度卒業)



令和4年度3月に富山県立大学看護学部一期生として、本学を卒業しました。現在は富山県立中央病院で看護師として呼吸器内科・和漢リウマチ科病棟で

働いています。働き始めてもうすぐ1年、緊張感と業務に追われる毎日です。

そんな中でも、患者さんが元気になって退院されて行く姿や患者さんからいただく「ありがとう。」の言葉で大きなやりがいを感じています。臨床では、大学での実習を通して学んだ「一人ひとりの患者さんの思いに耳を傾ける」という姿勢を大切にしています。まだまだひよっこ看護師で悩む事や自分の未熟さに挫折そうになる事もありますが、いつまでも初心を忘れずに患者さんの気持ちを大切にしたい看護を実践していきたいです！

土田 萌乃香さん
(令和4年度卒業)



私は、令和5年3月に富山県立大学看護学部を卒業し、その後は富山県立大学公衆衛生看護学専攻科に入学し保健師になるための勉強を1年間してきました。

専攻科での日々は、授業、実習、研究にと考えてもいなかったようなハードなスケジュールでした。しかし、とても熱心で優しいクラスの仲間、

暖かく時には厳しい指導もして下さる先生方、実習での指導や授業においても指導いただいた学校外の指導者の皆様のおかげで1年間本当に充実した学びを得ることができました。特に、1ヶ月間地域に出向いた実習では多くの学びを得られたと同時に、住民一人ひとりに丁寧に向き合いつつも地域全体を見て、地域の健康を支える保健師を身近で見て、保健師という仕事を改めて誇りに思いました。

春からは保健師として富山県で働きます。1年間この専攻科で得た学びと経験を糧に地域の健康増進に貢献していきたいです。そして、今後働いてからも学びを深め専門性を磨き、住みやすい地域づくりを行うために保健師だからこそ、自分だからこそできることを考えていきたいです。

小松 ひかり さん
(令和4年度卒業)



私は現在大学院に進学し、研究に取り組んでいます。大学院の講義では研究手法や統計といった基礎的なものから研究の取り組み方について学んでいます。また研究に集中して取り組める環境にあるので、看護師としての経験がない分、

自分の興味のある分野を調べることや、文献の検討に力を入れています。基本的に研究は自分で進めていかなければならないため、スケジュールを管理して、計画的に進めることが大変です。そのため研究室へ行く日と時間を決めて研究に取り組んでいます。

卒業後は看護師として自分の研究分野である小児に関わることができる病院に就職したいと考えています。看護師として経験を積みながら、日々の業務で生じる疑問などに目を向け、大学院で身につけた研究に取り組む能力を活かしていけたらと考えています。

ポートランド州立大学語学研修インタビュー

海外留学プログラムとしてポートランド州立大学語学研修がありました。
研修期間は2023年8月17日～9月9日で、看護学部からは3年生の飯尾さんが参加されました。



看護学部看護学科3年
飯尾 莉穂 さん



Q1. 留学しようと思った理由

中学生の頃から留学をしたいという思いがあったが、部活動が忙しく留学の機会がなかった。大学で留学プログラムがあることを知り、参加したいと思っていたがコロナの影響で昨年まで中止だった。今年度から再開となり、参加したいという気持ちはあるが後期から実習が始まるため勉強への不安や円安など悩む部分があった。だが、家族から「将来お金を貯めて旅行することはできるかもしれないが、現地の学校に行き、ホームステイをして現地の人と同じ生活を送り、異文化を理解することは留学でしかできない、だから行きたいと思ったときに行ったほうがいい」と後押しをしてくれて『今しかない』と決意し、参加した。



Q2. 留学先で感じたことや印象に残っていること

5歳年上のホストシスターと様々な会話をする中で、彼女の人生の向き合い方や考え方に感銘を受けた。彼女は他者の目を気にすることなく、自分の好きなことを体現し、失敗を恐れず、様々なことにチャレンジをしていた。私はそんな彼女の姿が誇らしく、羨ましく、またそれと同時に「何かするときにはそれなりの覚悟が必要で、やると決めたからにはやり遂げる責任がある」ことを学んだ。新しいことへ挑戦することはリスクがあり、躊躇いがちであるが、今私が抱いている夢に対して貪欲に挑戦し続けたいと、留学を通して自身の人生について考えるきっかけとなった。



Q3. 留学経験を今後どう生かしていきたいか



アメリカは普段から自主性を尊重する風潮があると感じ、拙い英語でも恥ずかしがらず、積極的に会話することや、自分の意見を持ち他者に伝えること、主張することの重要性を学んだ。またLGBTQに寛容で、個性を大切にしているポートランドで約1か月間生活をし、日本ではできない体験や文化、価値観に触れることができた。卒業後、看護の道に進む予定であるため、これらの留学で得た知見を生かし、「多種多様な患者さん、そして多種多様な思い」に寄り添うことができる看護師になればと考える。

同窓会活動報告・お知らせ

助成金交付式

ポートランド州立大学語学研修に参加した
看護学部3年 飯尾莉穂さんに富山キャンパス同窓会より
助成をいたしました。
令和5年7月に助成金交付式が行われ、佐伯学部長より
助成金が交付されました。



同窓会ホームページ開設のお知らせ

このたび、富山県立大学富山キャンパス同窓会のホームページを開設しました。
同窓会の活動や情報を広く共有するためのプラットフォームとして、ぜひご活用
いただければ幸いです。
今後、同窓生の皆様との交流を図りながら、同窓生や在学生への支援、交流を
重ねていけるよう努めていきたいと考えております。
同窓生の皆様の積極的な参画をお願いいたします。
URL : <https://tpu-toyamadosokai.jp>

令和6年能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
今もなお多くの方が厳しい避難生活を余儀なくされており、余震も続いている状況
です。
富山県立大学の被災された学生の皆様におかれましても、大変厳しい状況となりなが
らも、日々学業に励んでいらっしゃるものと存じます。
このたび、富山県立大学富山キャンパス同窓会、富山県立大学同窓会、富山県立大学
後援会では、被災された学生への支援の一環として、見舞金を支給いたしました。

被災された地域の日も早い復興と、皆様の安全・安心な生活を心よりお祈り申し
上げます。